

## 経験と将来予測

3月号の原稿の締切は1月なのですが、年末からの新型コロナウイルスの感染急拡大のため、11都府県に緊急事態宣言が発令されています。また、今冬は、日本海側では九州まで大雪となり、大規模な交通障害や雪を原因とする事故が続きました。どちらも過去の経験を基に一定程度の予測や準備はしていたものの、発生した規模の大きさに対応が追いつかず、結果として厳しい状況になってしまったのが現実だと思います。

話が変わりますが、当所の現在の中長期計画は令和3年度までであり、その後の研究を考える時期になっています。将来に向けた世の中のニーズ、現場の課題、既往研究成果等を踏まえ、優先すべき研究課題を考えるのですが、「この研究は当然必要」と自信を持っていても、今の研究との関係や基準類への反映の見込み、当所で研究する妥当性など問われる項目は多く、研究実施で予想される課題も見えてくると「無理して進めようとしていないか」と弱気になることもあります。

そのような時に頼りになるのは、経験・実体験です。自身の経験は限られていても、直接経験している方の話は説得力がありますし、自身の経験と重なる部分があれば理解も深まります。現場で課題を感じる機会があれば「必要な研究」と自信も持てます。改めて、経験工学であることを意識して視野を広げないと将来も考えられない、と感じています。

もっと現場に行き、また委員会などで幅広く情報交換させていただくべきなのですが、リモート対応だと本来目的の用件だけでほっとして終わってしまいがちです。などと言っているうちは、こちらも経験不足ですね。

(耐寒材料チーム上席研究員 島多 昭典)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。